

琉球大学教育学部教育振興会 第17号 令和2年10月号

ニュースレター

〒903-0213

沖縄県中頭郡西原町字千原 1 番地

Email : kyoikusinkokai@yahoo.co.jp

T E L : 098-895-8317

発行：琉球大学教育学部教育振興会 会長 上原 昌憲 編集：教育振興会



『自己肯定感』を高める

人はそれぞれ悩みの種類もその深さもさまざまだと思いますが、ほとんどすべての悩みをもたらす原因の根底にあるのは一つのことだ、と私は考えています。その一つのこととは何か。

【自己肯定感】です。

文字どおり、自分を肯定する感覚、自分を受け容れる意識です。

この自己肯定感が高いか、低いかによって、悩んだとしても、それを乗り越えていくことができたり、逆に悩みががんじがらめになってしまったり、という差が生まれます。

自己肯定感の高め方

- 🍄 「減点法」では、いつまでも自分を好きになれません。
- 🍄 自分に無理させない人
- 🍄 過去にいつまでも心を注がない
- 🍄 「やるべきことをやった」という思いを積み重ねる
- 🍄 自分に「ない」ものをあれこれ探し回らない
- 🍄 “美意識”を養うことは、大きな力になる
- 🍄 「見返り」を求めなければ、すべてが好転する
- 🍄 できるだけ、いい人と、いい時間をともに過ごす

- 🍄 自己肯定感をマヒさせる、『群れの心理』
- 🍄 「ワクワクする感覚」を何より大切にする
- 🍄 「小さな成功体験」を積み重ねていこう
- 🍄 うれしかった言葉を思い出す
- 🍄 好奇心を広げ「心の門」を開く
- 🍄 小欲知足

この中の、『自分に「ない」ものをあれこれ探し回らない』は、自分のよいところを探すということです。

多くの人は自分と他人を比較してしまい、みじめになったり、嫉妬したり、劣等感を感じてしまったりしますよね…。

自分にないものを相手に見てしまうからですよ…。

「無いものを数えるのではなく、あるものを数える」

「無いものを探すのではなく、あるものを探す」

よりよい人生を生きるため、自己肯定感を高めていきたいですね♪。



教育振興会

会長 上原 昌憲



半年間の交換留学を終えて

子ども教育開発 井上 香奈

私は生まれも育ちも沖縄で、沖縄以外の土地で暮らしたことがありませんでした。そのため、北海道という沖縄とは気候や生活、文化や自然が違う土地で過ごし、そこでしかできない多くのことを体験したいと思いました。また、北海道での沖縄とは違った自然や文化などを活用した教育についても興味があったので、北海道教育大学釧路校への交換留学に参加しました。



北海道での自然や文化などを活用した授業において、北海道と沖縄とで一番の違いは

体育ではないかと思いました。北海道では、地域別で体育にスキーやスケートがあり、

反対に沖縄では当たり前前のプールがない学校もあると聞きました。そのため、釧路校

には体育免許をとる学生が受けるスキー合宿があり、留学生もその合宿に参加させて

もらいました。この合宿中に、どこかの学校の教員2人が1クラスを引率して私たち

が合宿をしているスキー場に来ていました。やはり子どもたちは小さいころからスキー

をしてきているのか、どんどん滑っていくのを見てすごいなと驚きました。このことから、

北海道で教師になるには、教師は子どもたちの安全面に気をつけながら、やり方を

教えていくための技量が必要なのだと思います、ここでも沖縄との違いを感じました。

また、私は釧路校で生活科の講義を受講したのですが、この講義では大学の近くの公園

での活動がたくさんありました。雪が積もり、凍った湖のある公園では、凍った湖

の上を歩いたり、ブルーシートを使って雪

の上をそりで滑ったりなどの活動を行いました。沖縄にはない自然に触れながら、生活科の授業づくりについて考えるいい経験

になりました。北海道ではこのような周りの自然や季節を感じ、触れながら授業づくり

を組み立てていくのだと知ることができました。さらに、沖縄には平和教育という

沖縄特有の教育がありますが、北海道では地域教育がとても発展しているのではないかと

感じました。私は、沖縄で地域教育についてあまり考えたことがなかったのですが、

地域教育の必要性や学校と地域をどうつないでいくかなどを考える活動を通して、

地域教育の重要性を感じました。



釧路で過ごした半年間は、さまざまなものに興味を持ち、積極的に行動するようになったと思います。この経験はこれから大学

で学び、教師になるうえで本当に貴重な経験だったと思います。加えて、北海道という

地に新たなつながりができたことも良かったです。沖縄ではできない体験や、さまざま

な活動をするのができ、本当に充実した半年間でした。



令和元年度 (R1. 9・R2. 3) 卒業者の進路状況

区分 課程	専攻	A		a		b		就職状況																				
		卒業 者	進学者		求 職 者		教 員										教員以外				就 職 者 計	未 就 職	そ の 他 c					
			本学	他大学	県内	県外	県内	県外	県内	県外	県内	県外	特別支援学校	小計	日本人学校	教員合計	学校関係	官公庁	企業等	小計								
																								幼稚園	小学校	中学校	高等学校	県内
学校教育教員養成課程	教育実践	28	1			26				1	1	1					3		3			1	2	3	6		3	1
	国語	8				8	1		2		1					1		1					1	1	2			0
	社会科	6		1		5											0	1	1				1	1	2			1
	数学	7		1		6			1		1					1	2		2				1	1	3			0
	理科	7				7				1	1						0		0				1	1	1			1
	音楽	6				5			2						1		3		3					0	3			1
	美術	3				2											0		0					0	0			0
	保体	6				6			2	1							3	1	4					0	4			0
	技術	6				6					1					1	0		0				1	1	1			0
	生活科学	6				6				1	1	1			1	1	2		2					0	2			0
	英語	7				7			1		1				1		3		3				1	1	4			0
	特別支援	10	1			8									5	1	6		6					0	6			0
教員養成課程計				4			0	0	6	2	4	0	3	1	6	1	23	2	25	0	1	8	9	34				
	100	2	2	96	1	0	18	4	4	1	0	0	3	2	33	0	33	0	33	0	2	18	20	53			9	
生涯教育課程	子ども地域	30				26	2	1								3		3				2	2	5			5	4
	沖縄島嶼	15	1	1		13		1		3						5		5			1	6	7	12			1	
	自然環境	15	2			12			1		2	1	1			5		5				1	1	6			2	1
	生涯健康	9				8			2				1			3		3			1	2	3	4			0	1
	心理臨床	18	3	2		13			1							1		1			3	2	5	6			1	
生涯教育課程計				9			2	1	4	0	2	1	2	0	0	0	12	0	12	0	4	5	9	21				
	87	6	3	72	1	2	9	5	1	1	0	0	0	0	0	19	0	19	0	2	21	23	42			9		
合計				13			2	1	10	2	6	1	5	1	6	1	35	2	37	0	5	13	18	55				
	187	8	5	174	2	2	27	9	5	2	0	0	3	2	52	0	52	0	52	0	4	39	43	95			24	

令和2年3月24日(卒業時)現在

※就職状況データの上段は期限付き(臨時的)、下段は正規採用でともに外数。

- ・求職者 → (b) = 卒業者(A) - (進学者(a)) + その他(c)
- ・未就職者 → 教員浪人・公務員浪人を含む。
- ・その他 → 就職を希望しない者、研究生、科目等履修生、専門学校生、留学、資格取得、大学院受験、結婚、社会人入学、進路未定及び進路不詳の者である。



令和2年度 教員候補者 選考試験対策セミナー

【模擬授業及び個人面接】



- ✿本年度の教員候補者選考試験はコロナの影響で、試験の内容や日程が変更になり、それに合わせ、セミナーも内容や日程を変更して開催しました。
- ✿二次試験の『模擬授業及び個人面接』は教育実習と日程が被る方がいたため、先生方に土曜日も出勤してもらい対応しました。

教育振興会総会

令和2年度 教育学部教育振興会 総会（書面審議）の審議結果を、下記のとおりご報告させていただきます。

<結果>

賛成 636 票 反対 0 票

審議事項について、過半数の賛成をもって可決されました。

お忙しい中、書類をご確認いただきありがとうございます。
修正箇所の指摘や改善点など貴重なご意見、また激励のお言葉をいただきました。
学生の為の教育振興会ですが、その活動をもっともっとわかりやすく保護者の方へ
伝えられるよう工夫していきたいと思っております。ご協力ありがとうございます。

